

2021 年度 授業計画(シラバス)

| 学 科 | 言語聴覚士学科 | | 科 目 区 分 | 専門分野 | 授業の方法 | 講義 |
|--|------------|---------------------|---|--------------|-----------------------|----------------------------------|
| 科 目 名 | 補聴器、人工内耳 I | | 必修/選択の別 | 必修 | 授業時数(単位数) | 45 (2) 時間(単位) |
| 対 象 学 年 | 二年次・三年次 | | 学期及び曜時限 | 通年 土1-4限 | 教室名 | 404/405教室 |
| 担 当 教 員 | 玉川 友哉 | 実務経験と その関連資格 | 鳥取大学医学部付属病院に言語聴覚士として勤務。主業務は聴力検査、補聴器測定、人工内耳マッピング、小児難聴・人工内耳の言語訓練などを行っている。 | | | |
| 《授業科目における学習内容》 | | | | | | |
| 補聴器・人工内耳の原理、構造、機能について学ぶ。 | | | | | | |
| 《成績評価の方法と基準》 | | | | | | |
| 筆記試験(90点)、受講態度(10点)で評価する。 | | | | | | |
| 《使用教材(教科書)及び参考図書》 | | | | | | |
| 【教科書】「標準言語聴覚障害学 聴覚障害学」医学書院 | | | | | | |
| 《授業外における学習方法》 | | | | | | |
| 授業中にも問題提示を行い、解答を求めます。事前配布資料を毎回持参すること。 | | | | | | |
| 《履修に当たっての留意点》 | | | | | | |
| 2年次に15時間、3年次に30時間履修する。3年次の講義終了後に実施する定期試験によって評価し、科目認定を行う。 | | | | | | |
| 授業の方法 | 内 容 | | | 使用教材 | 授業以外での準備学習 の具体的な内容 | |
| 第1回 | 講義 演習形式 | 授業を 通じての 到達目標 | 補聴器の原理について理解し、説明することができる。 | 教科書、配布資 料 | | ・教科書を読んでおくこ と。確認テストを実施す る。 |
| | | 各コマに おける 授業予定 | 補聴器の原理 | | | |
| 第2回 | 講義 演習形式 | 授業を 通じての 到達目標 | 補聴器の構造について理解し、説明することができる。 | 教科書、配布資 料 | | ・教科書を読んでおくこ と。確認テストを実施す る。 |
| | | 各コマに おける 授業予定 | 補聴器の構造 | | | |
| 第3回 | 講義 演習形式 | 授業を 通じての 到達目標 | 補聴器の機能について理解し、説明することができる。 | 教科書、配布資 料 | | ・教科書を読んでおくこ と。確認テストを実施す る。 |
| | | 各コマに おける 授業予定 | 補聴器の機能 | | | |
| 第4回 | 講義 演習形式 | 授業を 通じての 到達目標 | デジタル補聴器の機能について理解し、説明することができる。 | 教科書、配布資 料 | | ・教科書を読んでおくこ と。確認テストを実施す る。 |
| | | 各コマに おける 授業予定 | デジタル補聴器の機能 | | | |
| 第5回 | 講義 演習形式 | 授業を 通じての 到達目標 | その他の補聴機器について理解し、説明することができる。 | 教科書、配布資 料 | | ・教科書を読んでおくこ と。確認テストを実施す る。 |
| | | 各コマに おける 授業予定 | その他の補聴機器 | | | |

| 授業の方法 | | 内 容 | | 使用教材 | 授業以外での準備学習の具体的な内容 |
|-------|--------|-------------|--|--|--------------------------|
| 第6回 | 講義演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 人工内耳の原理・構造について理解し、説明することができる。 | 教科書、配布資料 | ・教科書を読んでおくこと。確認テストを実施する。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 人工内耳の原理・構造 | | |
| 第7回 | 講義演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 人工内耳のリハビリテーションについて理解し、説明することができる。 | 教科書、配布資料 | ・教科書を読んでおくこと。確認テストを実施する。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 人工内耳のリハビリテーション① | | |
| 第8回 | 講義演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 人工内耳のリハビリテーションについて理解し、説明することができる。 | 教科書、配布資料 | ・教科書を読んでおくこと。確認テストを実施する。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 人工内耳のリハビリテーション② | | |
| 第9回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 基礎の解剖用語(内耳まで)を理解して、補聴器・人工内耳を使用する際に、どのような関わりがでてくるかを考える。 | PC (Power Point) 聴覚解剖モデル教科書 | 解剖学や耳鼻科学の耳の解剖を確認する。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 補聴器・人工内耳の理解に必要な聴覚系の解剖 | | |
| 第10回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 聴覚の生理現象を理解する。特に内耳の役割(場所説・頻度説)を理解する。 | PC (Power Point) 聴覚解剖モデル教科書 | 耳に関する生理現象を確認する。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 補聴器・人工内耳の理解に必要な聴覚系の生理 | | |
| 第11回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | dBHLとdB SPLの関係の違いを理解する。 | PC (Power Point) オーディオメーター教科書 | 音響学の教科書、特にdBの部分を確認する。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 補聴器・人工内耳の理解に必要な音響知識・聴力検査① | | |
| 第12回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 耳あな・耳かけなど、補聴器の形とその特徴を理解する。 | PC (Power Point) 補聴器(デモ機)教科書 | 新しい知識のため、特に事前準備は必要なし。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 補聴器の種類と基礎の仕組み | | |
| 第13回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 聴力検査と補聴器の増幅との関係を理解する | PC (Power Point) 補聴器(デモ機) 補聴器特性装置教科書 | 聴力検査(第3回)で実施した内容を振り返る。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 補聴器のフィッティングの考え方 | | |
| 第14回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 補聴器装用下での言語発達支援と評価、問題点を理解する。 | PC (Power Point) 補聴器(デモ機)教科書 | 言語発達の基礎知識を振り返っておく。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 補聴器装用後の聴覚活用と聴能訓練 | | |
| 第15回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 人工内耳(手術の流れ、術前検査、システム、コード化法など)を理解する。 | PC (Power Point) スピーチプロセッサ・インプラン(デモ機)教科書 | 新しい知識のため、特に事前準備は必要なし。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 人工内耳の基礎知識 | | |

| 授業の方法 | | 内 容 | | 使用教材 | 授業以外での準備学習 の具体的な内容 |
|-------|------|-------------|--|---|-----------------------|
| 第16回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | マッピング(ラウドネススケールとインピーダンス)に関して、学生が説明できるようにする。 | PC (Power Point) スピーチプロセッサ・インプラン(デモ機) 教科書 | 第7回目の用語を復習しておく。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 人工内耳のマッピング | | |
| 第17回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 聴性脳幹反応の原理・測定方法を理解する | PC (Power Point) 聴覚解剖モデル 教科書 | 第1、第2回目の復習 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 補聴器・人工内耳の理解に必要な聴覚系の解剖・生理(第1・2回の復習および聴性脳幹反応と補聴器・人工内耳の関連性について) | | |
| 第18回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 失聴になる原因疾患と病態を理解し、補聴器・人工内耳の適応を考えることができる。 | PC (Power Point) 聴覚解剖モデル 教科書 | 聴覚の解剖・生理を復習しておく。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 補聴器・人工内耳が必要になる疾患・病態について | | |
| 第19回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 検査・評価に対する違い(迷路性・後迷路性もふくみ)を理解し、補聴器・人工内耳の適応を理解する。 | PC (Power Point) オーディオメーター 教科書 | 第10回の復習 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 補聴器・人工内耳が必要になる疾患・病態に対する検査・評価について(成人) | | |
| 第20回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 小児の場合、発症時期・病態によって、検査が異なるため、どの検査を選択するのかを理解する。 | PC (Power Point) 聴力検査室 教科書 | 第10回の復習 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 補聴器・人工内耳が必要になる疾患・病態に対する検査・評価について(小児) | | |
| 第21回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 等級決定の方法を理解する。 | PC (Power Point) 教科書 | 事前に用意する資料を学習しておく。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 補聴器・人工内耳に関する保険制度や障害者福祉制度について① (障害者福祉手帳に関して) | | |
| 第22回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 新しく開発されていく補聴器の構造を理解する。 | PC (Power Point) 教科書 | 事前に用意する資料を学習しておく。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 特殊な補聴器機器に関して① (集音機器や軟骨伝導型補聴器、オープンフィット補聴器など) | | |
| 第23回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 補聴器の調整に必要な用語を正確に理解する。 | PC (Power Point) 教科書 | 第4回を復習しておく。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 補聴器に関する用語の解説 | | |